

奈良ブロック共同宣教司牧担当 メッセージ

今の現実を見つめ 今できることを考えましょう

柳本 昭神父(モデラートル)



大和郡山教会のみなさん、70周年おめでとうございます。わたしが初めて大和郡山教会を訪ねたのは神学生時代か初ミサのときだったのか記憶は定かではありませんが、青年センター担当司祭になってからはたびたび訪れていました。

また、青年アジア体験学習も担当するようになり、当時は多くの青年が奈良県から参加していたので、大和郡山教会で集まりをすることが多く、わたしもそれに参加していました。ですから、わたしが奈良ブロックの担当司祭に任命されてから、大和郡山教会のミサに来たときも、懐かしい場所に来たような思いでした。

当時の青年たちも年を重ねてそれぞれの場所に巣立っていき、わたしも年を重ねて心身ともに無理できない状況になってきました。今回の原稿を催促されるまで失念していたのもその一つですね。同じように教会の建物も年を取り、無理できなくなってきましたが、それは当然の摂理です。大切なことは、過去の思い出に浸ることではなく、今の現実を見つめ、今できることを考えることだと思います。

主はわたしたちに永遠のいのちを与えてくださいました。それは死後もいのちが続くというだけでなく、今のわたしたちのいのちが受け継がれていくということなのです。

どのような形でこれからの教会共同体が続いていくかは聖霊にお任せするとして、今この地にわたしたちの教会があることの意味を共に考えましょう。

奈良ブロック共同宣教司牧担当 メッセージ

守護聖人被昇天の聖母こそ 巡礼の模範

出水 洋神父(教区司祭)



大和郡山教会献堂70周年記念おめでとうございます。献堂記念を奈良ブロックの一人としてお祝いできることに感謝しております。

大和郡山教会の守護聖人は被昇天の聖母だということをお聞きしました。聖母マリアの被昇天は徒にとって聖母の被昇天は模範となります。大和郡山教会の皆様も信仰という素晴らしい恵みをいただいた時に聖母マリアとともに始まる新しい船旅に船出しました。そして多くの新しい信仰の友たちと出会い、信仰における豊かさを実感されていると思います。昨今では新たに多くのベトナム人の兄弟姉妹たちをはじめ外国籍の信徒も迎えて信仰の旅路をさらに豊かなものとして歩み続けています。私たち一人ひとりが、信仰の巡礼者として共に手を携えながら信仰の船旅を歩んでいます。

大和郡山教会に集う一人ひとりがイエス様に従い忠実に生きた時に、栄光の命の道を聖母マリアによって示されました。

今年には聖年であり「希望の巡礼者」として巡礼の旅をしている私たちにとって、被昇天の聖母こそ巡礼の模範となります。これからも、聖母マリアの模範に従いながら共に信仰の旅を歩んでいける共同体を築いていけるように願います。

奈良ブロック共同宣教師牧担当 メッセージ

懐かしい日本風のタタミ、敷の聖堂にお恵み豊かさと

シスター 服部 悦子(善きサマリア人修道会)



私は、善きサマリア人修道会に入会して、数年、奈良市に住んでいましたが、その後、東京、長崎県佐世保市と異動があり(2回目)、奈良には、久しぶりに住むようになりました。初めて、週日に大和郡山教会に伺ったとき、内部は、日本風にタタミの上に、長イスがあり、なんとなく長崎県の教会に似ていると思いました。大きな聖堂

の横に、小聖堂があり、ご聖櫃が置かれ、静かに祈る時間を持つことに気づき、お恵み豊かだと感じました。初めて訪問した教会でしたが、お会いする信徒の方々は、親しく声かけをしてくださり、心温まる機会に恵まれました。近鉄郡山駅から坂道を歩いていくと、十字架が見え、落ち着いた建物でスッキリした気持ちになりました。若返りました

二回目の異動で再度、奈良修道院に移ったとき、教会の敷地内に「浦上切支丹大和郡山流配者記念碑」があり、1869年「長崎浦上四番崩れ」が起こり、大和郡山にも14家族、86名の信徒が流され、苦難に満ちた流配生活を克服し、信仰を守り通しました。

この碑は、この地で殉教死した4名の方々を祭ったものです。信仰を守り通すという強い信念をお手本に当時の信徒の方々の神に対する大きな尊敬・信頼を改めて考えさせられました。

その後、私は、教会のいろいろな行事に参加することができ、その時の信徒のみなさんの協力する姿、そしていつも明るく笑顔、声が家庭的で楽しさを感じさせられました。これからの大和郡山教会の歩みに、神様の豊かな祝福と信徒全員で篤い信仰心・協力する心を続けていけるように、心からお祈りいたします。

奈良ブロック共同宣教師牧担当 メッセージ

聖母マリアに励まされ 私たちの使命を新たに

シスター ロサ・チェリアン(カルメル宣教修道女会)



今日は、私たちの共同体にとって、なんとという恵みの日でしょうか。聖母の被昇天という聖なる祝日に、郡山カトリック教会創立70周年を迎えることができました。この祝日は、私たちの記念日を祝うのに、まさにふさわしい日です。聖母マリアが、その靈魂もろとも天に上げられた被昇天は、力強い象徴です。それは、愛と一致を通して人々の心を神様へと向けるといって、私たちの教会の使命を表しています。過ぎ去った70年という年月に、深く感謝いたします。

では、聖母の被昇天は、今日の私たちにとってどのような意味を持つのでしょうか。第一に、それは私たち自身の行く末についての約束です。聖母マリアは、私たちの人生が神様と共にある栄光へと定められていることを示しています。死は終わりではなく、永遠のいのちへの通り道なのです。第二に、そのご生涯は、私たちにとって大きな励みとなります。聖母マリアは、謙虚に神を信頼して生きました。その姿は、静かな奉仕の生涯が、想像をはるかに超える報いに通じることを証明しています。最後に、聖母マリアは天におられる私たちのための、力強い仲介者です。私たちの喜びも苦しみも理解してください。愛情深い母であり続けています。私たちのために祈り、御子イエスのもとへと導いてくださいます。

私たちの教会の歴史と信仰との、この素晴らしい結びつきを共に喜びましょう。聖母マリアの模範に励まされ、私たちの使命を新たにしましょう。感謝のうちに過去を祝い、新たな希望を胸に未来を歩んでいきましょう。